

再 評 価 書

箇所名	三和片川線	事業名	林道事業	課 名	農林水産部 治山林道課											
事業概要	工 期 (下段前回)	昭和 49 年～平成 39 年	全体事業費	7,635 百万円(負担率：国 50：県 50)												
		昭和 49 年～平成 33 年	(下段前回)	7,635 百万円(負担率：国 50：県 50)												
事 業 目 的 及 び 内 容																
<p>(1) 所在地 熊野市紀和町和気地内の県道小船紀宝線を起点とし、同町小栗須地内の国道 3 1 1 号を終点とします。</p> <p>(2) 事業の目的 路網が未整備な熊野市紀和町南東部の広大な森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、布引の滝など森林や自然を活かした観光資源へのアクセス道路として地域振興を図ることを目的とします。</p> <p>(3) 全体計画</p> <p>① 延 長 : 3 2, 2 6 0 m</p> <p>② 幅 員 : 5 m (天瀬～楊枝川区間は平成 1 4 年度から 4 m に縮減)</p> <p>③ 事業費 : 7, 6 3 5, 1 7 7 千円 (2 3 7 千円/m)</p> <p>④ 事業期間: 昭和 4 9 年度～平成 3 9 年度 (5 4 年間)</p> <p>(4) 利用区域の森林資源の状況 当該路線の利用区域面積は 2, 4 9 6 h a、そのうち人工林 1, 5 6 7 h a で、人工林率は 6 3 % です。 人工林の 8 4 % が 1 1 ～ 6 0 年生の間伐対象の森林です。</p>																
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果																
<p>1 再評価を行った理由 平成 2 0 年度に、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条に基づき再評価を行いました。再評価実施後 5 年を経過しましたので同要綱に基づき再評価を行いました。</p>																
<p>事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1) 事業着手 昭和 4 9 年度に布引工区で工事着手</p> <p>(2) 進捗状況 (平成 2 4 年度末の事業量)</p> <p>① 開設延長 : 2 4, 0 9 9 m (進捗率 7 4. 7 %)</p> <p>② 事業費 : 5, 6 1 8, 9 2 0 千円 (進捗率 7 4. 0 %)</p> <p>(3) 課題 県予算の状況が年々厳しくなっていることなどから、現在の事業計画期間内での完成は困難で、事業完了を平成 3 9 年度に延長せざるを得ない状況です。</p> <p>(4) 利用区域内の森林整備の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">H 2 5 調査時点</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">整備面積</th> <th style="text-align: center;">うち間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H 1 5 ～ 1 9</td> <td style="text-align: center;">3 8 9. 8 6 h a</td> <td style="text-align: center;">3 3 3. 5 8 h a</td> </tr> <tr> <td>H 2 0 ～ 2 4</td> <td style="text-align: center;">4 6 4. 3 5 h a</td> <td style="text-align: center;">2 9 9. 4 9 h a</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) その他利用区域内の状況 旧紀南森林組合や森林所有者などにより、これまで約 8, 5 0 0 m の作業道等が開設され、間伐等の森林整備や木材生産が実施されました。 今後も約 9, 3 0 0 m の作業道開設が計画されています。</p>							H 2 5 調査時点		整備面積	うち間伐	H 1 5 ～ 1 9	3 8 9. 8 6 h a	3 3 3. 5 8 h a	H 2 0 ～ 2 4	4 6 4. 3 5 h a	2 9 9. 4 9 h a
	H 2 5 調査時点															
	整備面積	うち間伐														
H 1 5 ～ 1 9	3 8 9. 8 6 h a	3 3 3. 5 8 h a														
H 2 0 ～ 2 4	4 6 4. 3 5 h a	2 9 9. 4 9 h a														

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

1) 周辺環境の変化

- ①熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町の合併により誕生しました。
- ②熊野市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備を上げています。
- ③熊野原木市場における素材の取扱量及びスギ・ヒノキの平均価格を平成19年度と平成23年度と比較すると、取扱量で約8%、ヒノキの平均価格で約26%減少しています。
- ④平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界などと一体となって、地域の森林整備と保全を進めています。
- ⑤熊野市は、市が管理する森林に対して平成24年5月にフォレストック認定を取得し、森林オフセットクレジットを関連企業に販売することで得られる資金をもとに森林整備を実施しています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

費用対効果は、1.02です。

	今 回
B (便益)	12,552,846千円
C (費用)	12,283,660千円
B/C	1.02

4-2 その他の効果

布引の滝など森林や自然に市民がふれあう機会増進のための短縮路として、また災害発生時には県道熊野川紀和線の迂回路として期待されます。

4-3 地元意向

熊野市では、林業振興や森林の適正管理を促進するとともに、自然豊かな観光資源へのアクセスや生活道、また避難道路としての役割もあることから事業継続を望んでいます。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

波形線形の採用、幅員や路肩の縮減、またコンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を減らすことなどによりコスト縮減を図ります。

5-2 代替案

当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

再 評 価 の 経 緯

《平成20年委員会意見》

事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。

林道「三和片川線」位置図

